



タマネギを切ると涙が出る原因の硫化アリルは、ビタミンB1の吸収を助けて新陳代謝を活発にし、コレステロールの代謝を活発にし、血液をサラサラにして動脈硬化や高血圧、糖尿病を予防する効果もあります。近年明らかになったところによると、野菜の中では最も細菌病、大腸菌などを寄せ付けず、安全性では極めて優れていることが裏付けされています。

タマネギは病害に強く、毎年同じ畑でも作れるので、自家菜園の作付けにも大変便利です。貯蔵力もあり、使い道も幅広いので、たくさん育てることをお勧めします。

家庭菜園では、通常晩秋に回る苗を買い求めて育てる場合が多いのですが、タマネギは黄、白、赤の品種があり、収穫期の違う極早生、早生、中生、晩生と特徴のある数々の品種があります。

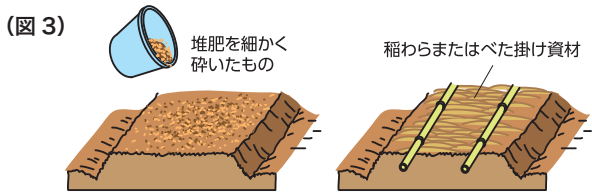
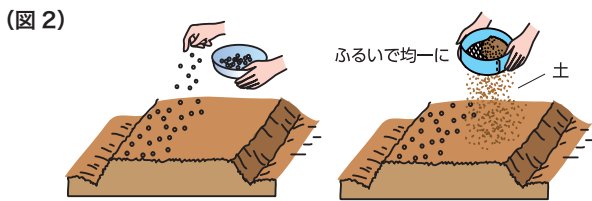
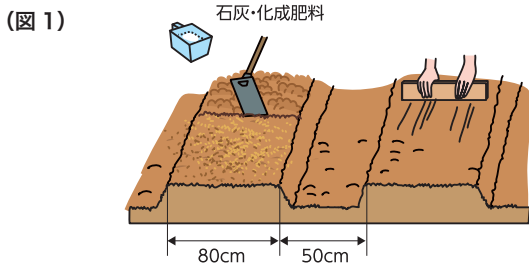
これらを上手に育て楽しむには、自分で好みの品種を選び、種子か

ら育てましょう。特に直売など販売を目的とする場合は、苗代の負担も大きくなってしまいます。

種まきの適期は、極早生8月下旬～9月上旬、早生9月上旬、中生9月中旬、晩生は9月下旬です。適期まきはとても重要なことなので、各営農センターにおたずねください。特に中晩生の品種を早くまき過ぎると、越冬するまでに大きく育ち過ぎ、「とっ立ち」(花をつける茎が伸び、根や葉に栄養がいかなくなる)として失敗してしまいます。

苗を上手に育てるには、苗床の前作を早めに片付け、種まきの20日以上前に完熟堆肥と石灰、化成肥料をよく耕やしておきます(図1)。(図2)トマト、ナスなどの強い根が残る野菜の跡地は避けてください。

種まき前に丁寧に苗床の表土を



ならしてベッドを作り、約1～2cm間隔ぐらいに均一に種をまきます。その後ふるいで2～3mmほどの厚さに、まんべんなく覆土し(図2)、板切れなどで軽く表土をたたいて鎮圧し、その後ジョウロでたっぷり灌水します。

その上に細かく砕いた完熟堆肥をごく薄く覆い、その後苗床全面を稲わらやべた掛け資材を二重に覆い(図3)、残暑や乾燥、台風や強風の被害から守ります。

種まき後5～7日で発芽し苗が伸び始めたら、これらの被覆資材は取り除き、ジョウロでたっぷり灌水して生育を促します。

肥料・農薬のご紹介

タマネギの「べと病」にベトファイター

顆粒水和剤(100g入)



タマネギ栽培で特に注意すべきなのが「べと病」です。べと病は予防が大切なので、定期的に防除する事が効果的です。



それでも発生するべと病には「ベトファイター顆粒水和剤」がオススメ。

◆主な特徴

- ① 長い効き目と高い予防効果で、持続的にべと病の発病を抑えます。
- ② 病気の出始めに散布しても治療的な効果を発揮し、進行を抑えます。
- ③ 優れた浸達・移行性があり、散布ムラに強い。

タマネギの葉は水を弾きやすいので、使用する際に展着剤を合わせて使うと効果が安定します。



今月の農家さん

成果が見える農業

野洲市五之里
川崎 権蔵さん (60才)



専業農家として12haの田畑を手掛ける川崎さん。3年前の退職をきっかけに、本格的に野菜作りを始め、9月は主にキャベツを育てています。今年は4品種を約30aずつ作付けしました。

キャベツにとって大切な水の管理には、FOEASと呼ばれる地下水位を調節する装置を使っていますが、それでも心配な川崎さんは、土の様子を見ながら追加の水やりをしたり、手作業で雑草の処理をしたりとキャベツに愛情を

注いでいます。

「野菜の世話をするのは体力も使いますし、時間もかかります。でも、その分の仕事の成果が見えるのでやり甲斐があります。それに、苦労して育てた野菜を収穫する喜びは何にも代えられません」と川崎さんは笑顔で話します。

最後に川崎さんは「愛情を込めてコツコツと世話をすれば、きっと野菜は成果を見せてくれます」と野菜作りに挑戦する方にメッセージを送ります。

営農情報

稲刈り跡の雑草防除について

稲刈りが終わり、田んぼの世話が一段落する時期ですが、実はこのタイミングが雑草の防除に適しています。

特に、畦畔からほふく茎をのばして侵入するキシユウスズメノヒエやアシカキがはびこった時や、難防除雑草のクログワイ、ホタルイ、ミズガヤツリなどが20cm程度に再成長した時は、『ラウンドアップマックスロード』を散布すると効果的です。

ただし『ラウンドアップマックスロード』は、薬液を雑草の葉や茎に直接かける事で効果を発揮するため、雑草がワラなどに隠れていると効果が薄れますのでご注意ください。

また、冬になり雑草の生育が停滞すると、効果が落ちますので11月頃までに散布しましょう。

『ラウンドアップマックスロード』はアミノ酸系除草剤です。土に落ちた成分は微生物が分解して、水や炭酸ガスになります。土に成分が残る事はないので、散布した翌日に耕起や播種、定植をしても問題はありませぬ。

ただし、タマネギは耕起5日前

までに散布してください。

耕起した後も、雑草は土中で生き残る事があるので、耕起する前に散布を行い、雑草を根まで枯らしましょう。

※水稲刈跡に『ラウンドアップマックスロード』を利用した場合、次年度の農薬カウントに1成分プラスとなります。

エコ富士米(環境こだわり米)の作付者は、ご注意ください。



土に落ちた成分

水

アミノ酸

炭酸ガス

リン酸塩

天然生成物

※イメージ